

石岡市教育委員会 教育長賞

「明るい未来になるように」

南小学校 三年 小池 将（「いけしろう」）

ぼくのお兄さんは、今年の八月五日に広島県の平井記ねんしきてんにさんれつしました。ぼくはお母さんと朝の八時からテレビをつけて見ていました。八時十五分にはさんれつしている方といっしょにもくとうをしました。そこからさい後まで見ていました。むずかしい内ようのお話もありましたが、せんそうがすごかったこと、原ばくがとう下されたことで、広島町がひさんなことになるってしまったことをはじめて知りました。

ぼくは、せんそうという言葉は聞いたことはありませんが実さいはよく分かっています。お兄さんやお母さんに話を聞いてみました。写しんも見ましたがこわくてかなしくなりました。うその世かいだと思いました。今の日

本では考えられませんでした。ぼくは毎日、朝起きてごはんを食べて、学校へ行ってべん強をしたり、うん動したり、友だちと遊んだり、それは、ふつうのことだと思っています。でも、今でも遠くの国ではせんそうをしているところがあるとテレビで見たことがあります。ぼくのようにふつうとと思っている生活ができない人たちがいるということです。

どうしてそのようなことが起きてしまうのか、考えてみました。それは、小さいことかもしれないが、けんかが大きくなってせんそうになっしまうのではないかと考えました。ぼくもけんかをしてしまうことがあります。ちよつとしたことかもしれませんが、頭に来たり、いやな思いをすると

言い合いになります。でも、それはよく話し合ったり、相手のことを思いやったり、考えたりして、なか直りすることがあります。動物でもけんかをすることがありますが、人には言葉というものがあります。これをつかうことができるのは、人だからなのです。もっと思いやりをもってすごしていけばけんかが少なくなると思いました。そうすればみんなでなかなくなることができます。

これから大きくなって中学校か高校に行って、そのあとはお仕事をしたりして、たくさんの人とかかわるときがくると思います。その中で相手のことを考えて、なにかいやなことがあっても、話し合いをしたり思いやる心があれば、みんなが、ぼくの思っている

ふつうの生活ができると思いました。
そうすれば平わにくらせると思いま
す。

ぼくのお兄さんがこのようなこと
を考えるチャンスを与えたことにか
んしゃしたいと思います。ありがとう
ございました。

